

道路・交通空間とまちづくり

田島 夏与

立教大学 経済学部経済政策学科 准教授

2016年3月6日

綾瀬まちづくりフォーラム

本日の報告の流れ

- ✿ 都市間競争の時代における道路・交通と都市
- ✿ 東京都市圏における人口の動向
- ✿ 大学生が「戻りたくなる地元」とは？
- ✿ 道路・交通空間とまちづくりを一体的に行った事例
 - ✿ ボストンにおける高速道路地下化とローズ・ケネディ・グリーンウェイ
 - ✿ シカゴにおける鉄道跡地へのミレニアム・パークの整備
 - ✿ 首都高速道路大橋ジャンクションと目黒天空公園

「都市の成長のカギは資本 (capital) から
人的資本(human capital)へ移行してきた」

Edward L. Glaeser(2011)

情報産業などにおける知的労働に従事する人々がまず集まる

原料や消費地への交通利便性、安い労働力

優秀な労働者の存在にひきつけられて企業が集まる

製造業における設備・機械への投資(工場の立地)

収益力の高い企業に投資家も注目し、資本の集中を呼ぶ(例:シリコンバレー、バンガロール)

労働者が集まり、高い生産力を通じて地域経済が成長(例:デトロイト)

1990年代以降、人の移動・近接性の重要性が、モノの輸送費用の重要性を大きく上回るよう
に変化した。



クリエイティブ人材の 誘致や定着に影響を与える アメニティの例

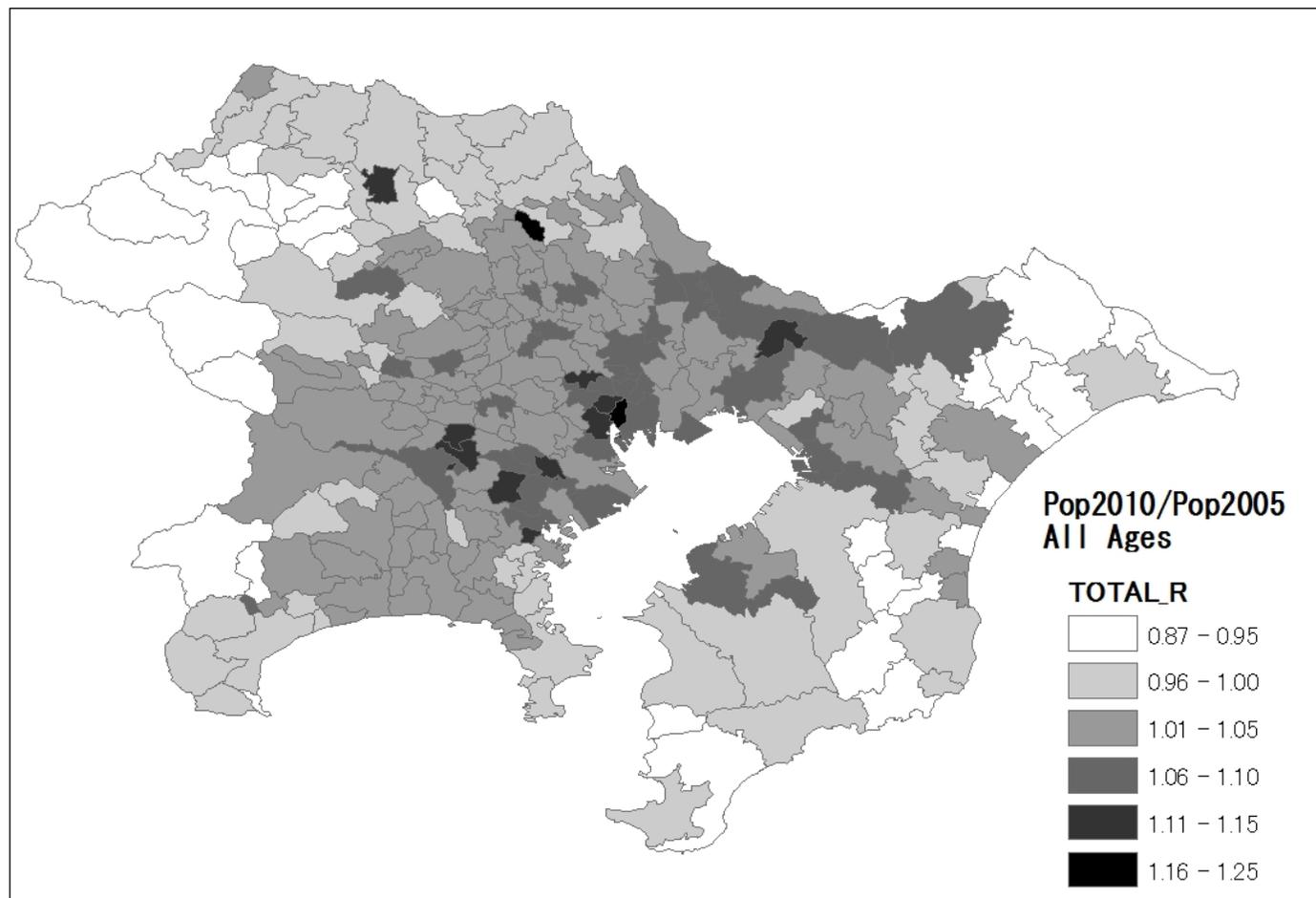
- 自然環境や緑、アウトドアレクリエーションの機会
- 他のクリエイティブな人々との交流・出会いの機会
（←地域に「馴染めるか」、「気の合う仲間」がいるか）
- 文化芸術・余暇活動（映画、スポーツ、音楽、演劇、美術・・・）に触れる機会
- レストラン、カフェ、ナイトライフなど交流の場
- 家族にとっての生活の質（学校など教育機会を含む）に必要な資源・インフラが整っているかどうか。



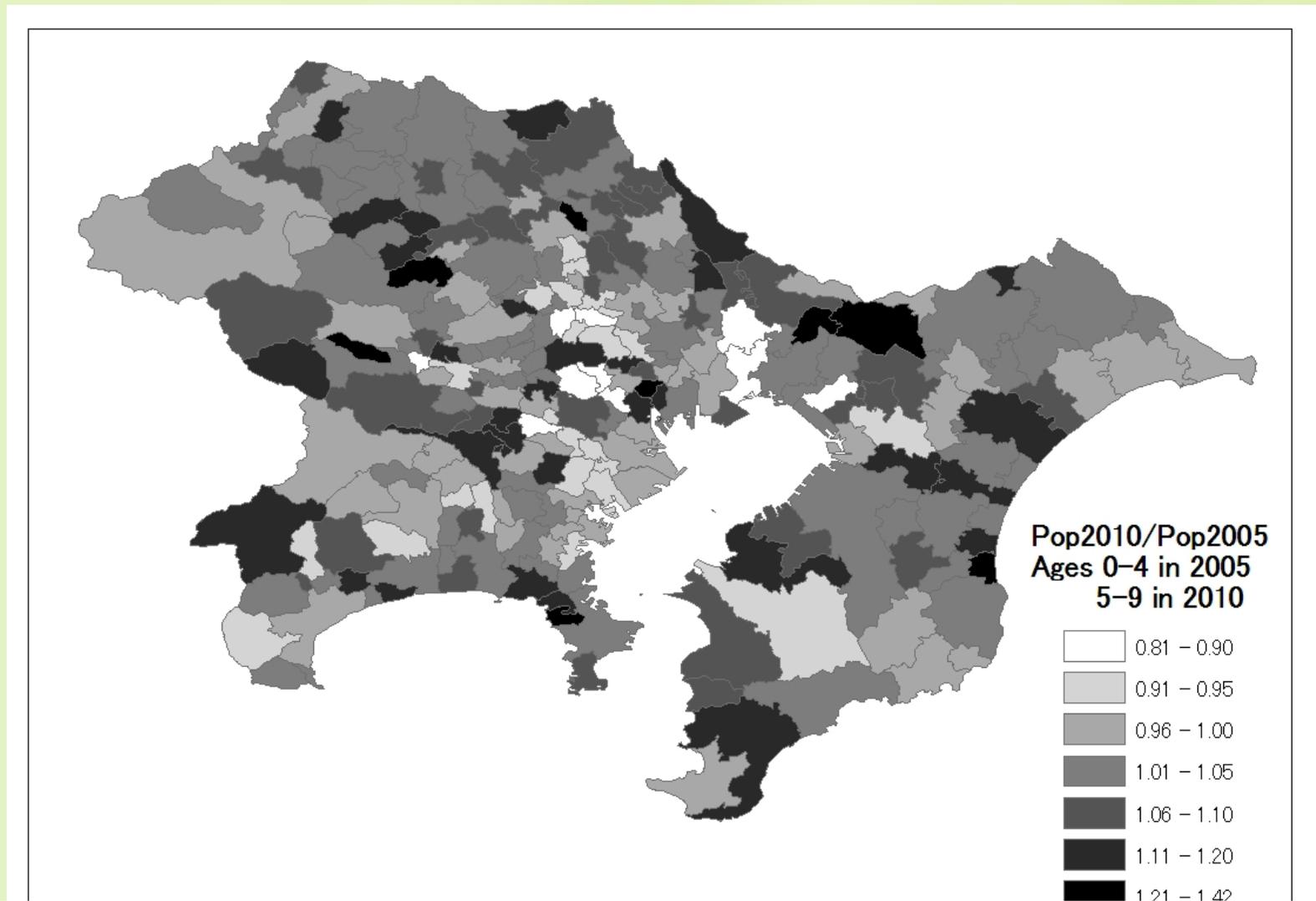
東京を中心とした地域の人口の動向

～都心回帰と郊外の縮小～

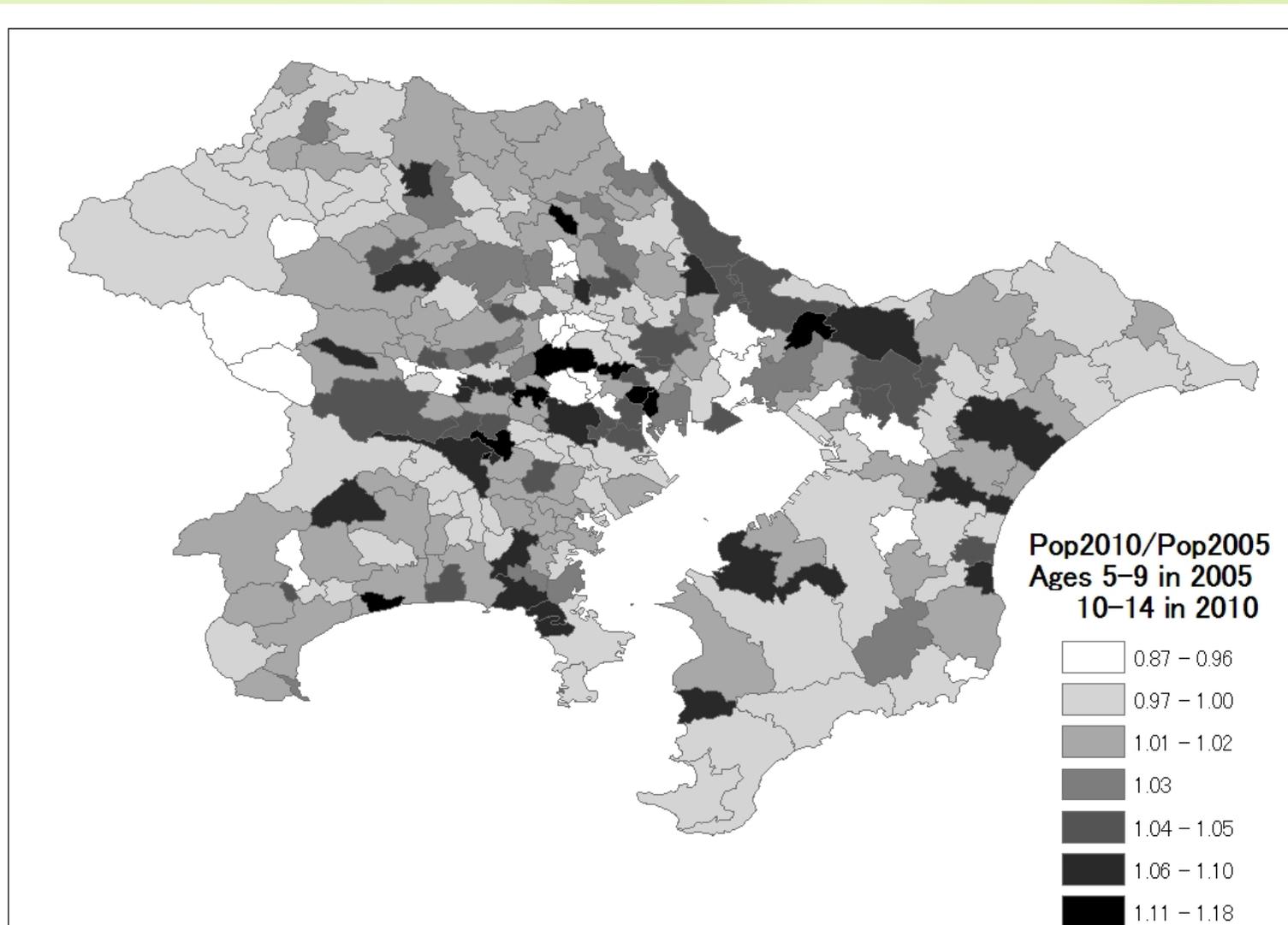
2010年/2005年人口比 (全年齡)



2010年(5-9歲)/2005年(0-4歲) 人口比

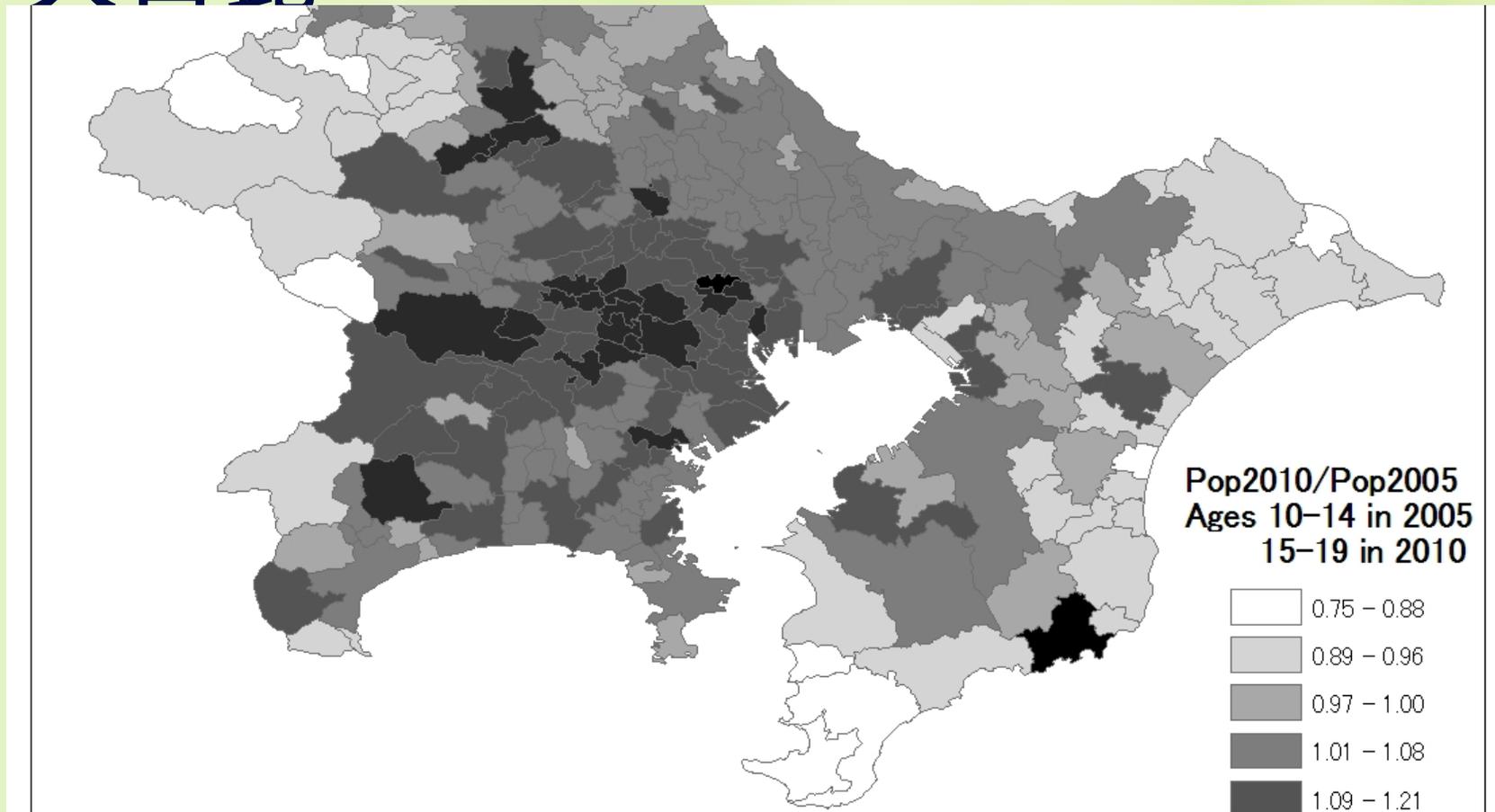


2010年(10-14歲)/2005年(5-9歲) 人口比

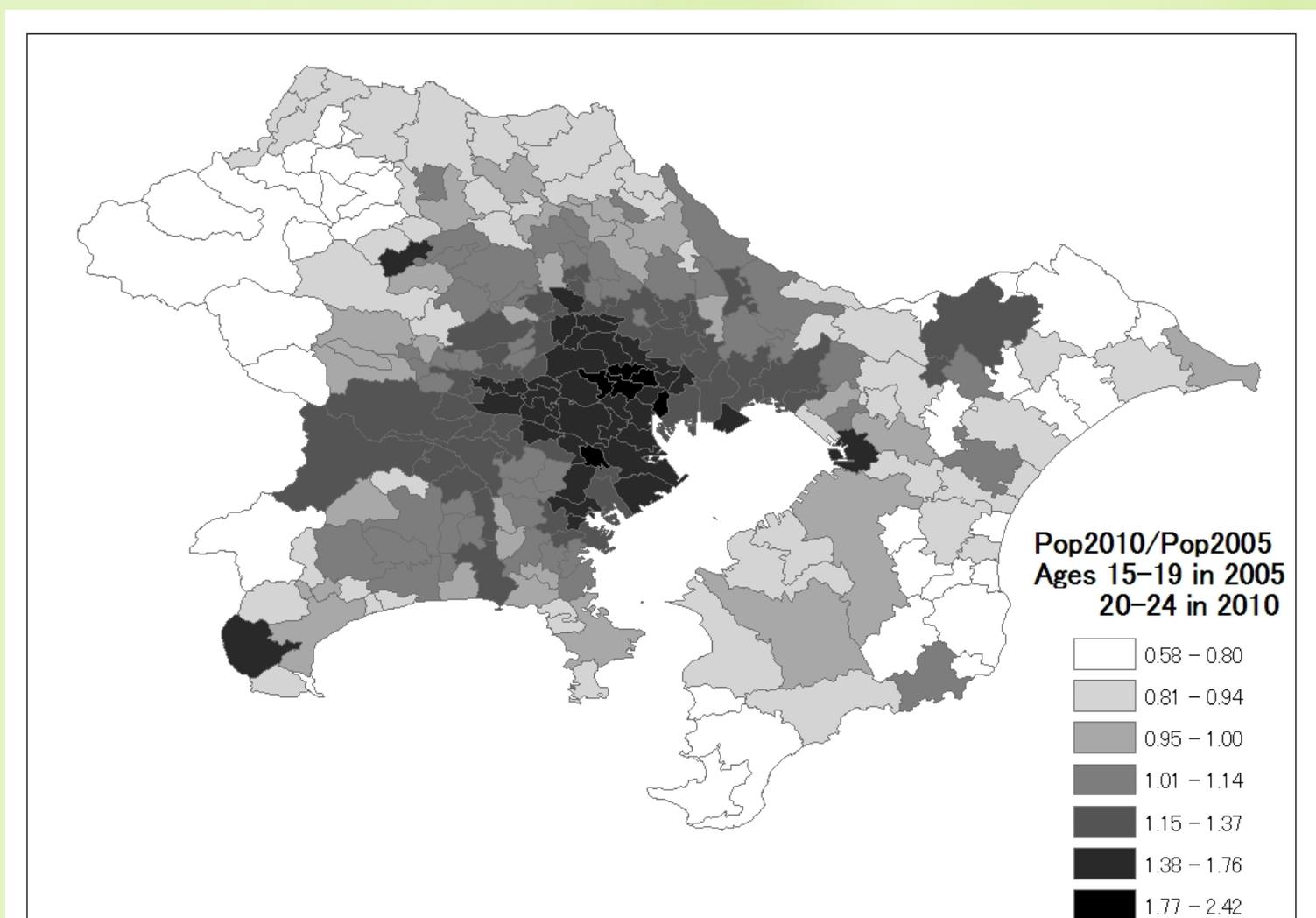


2010年(15-19歲)/2005年(10-14歲)

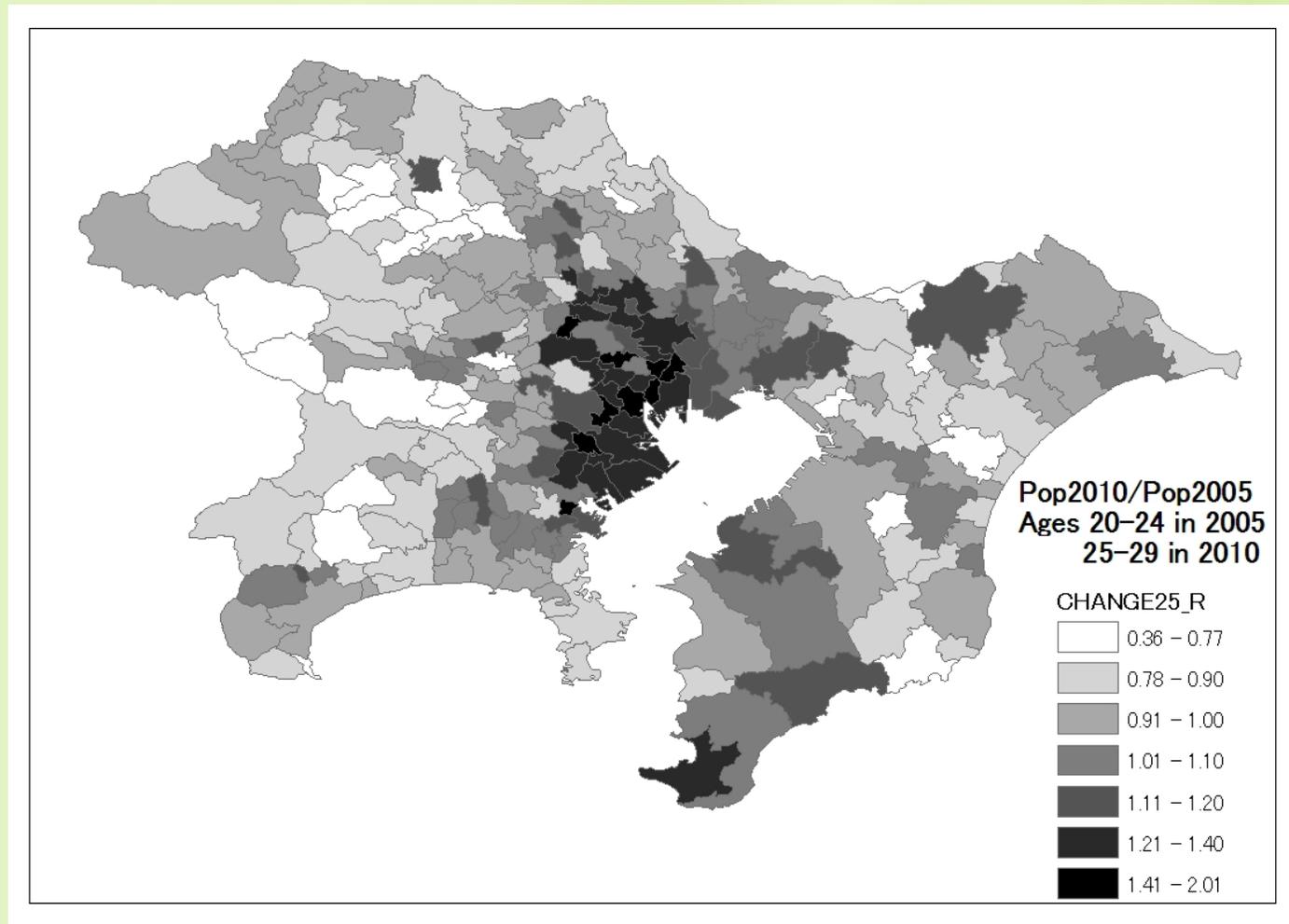
人口比



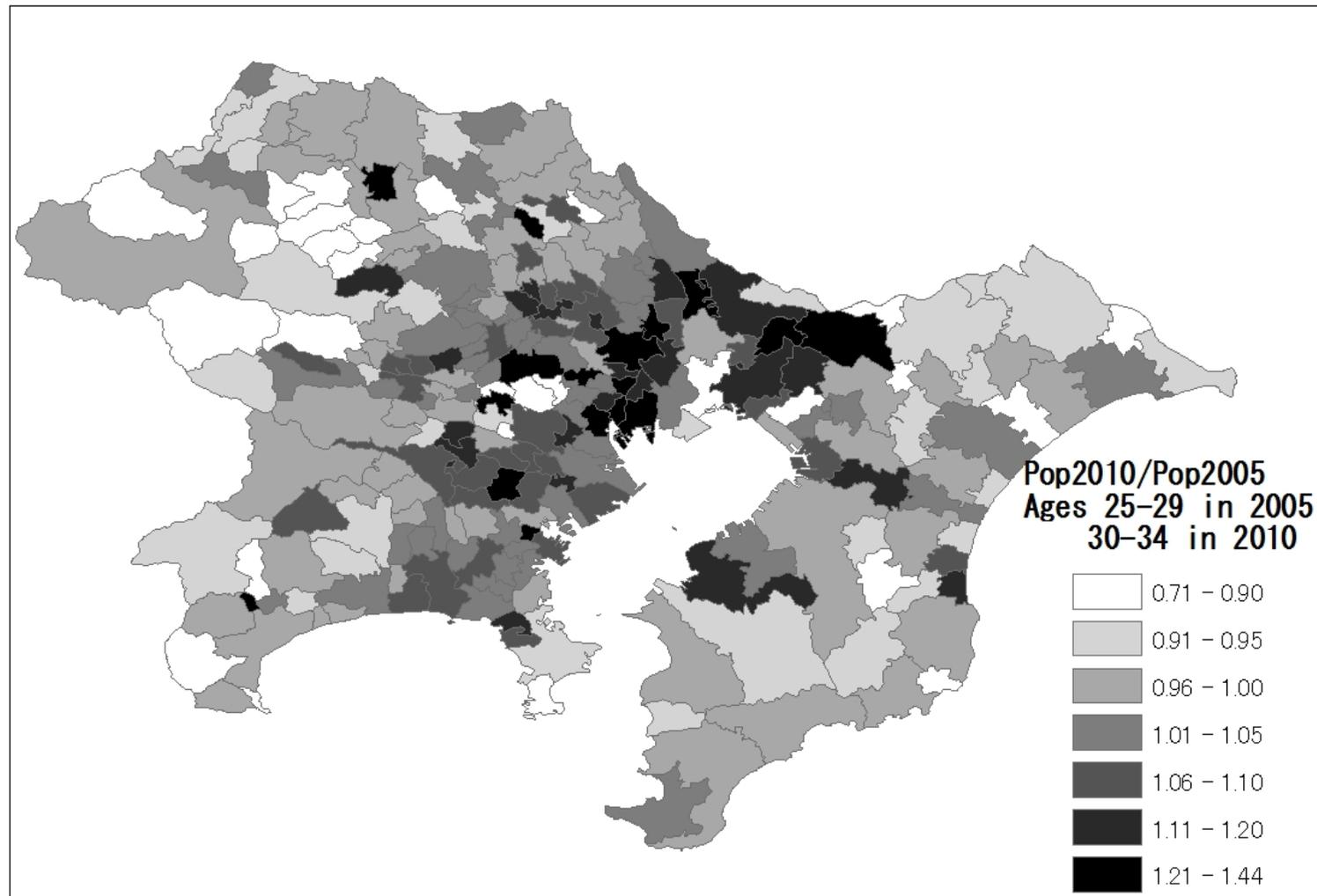
2010年(20-24歲)/2005年(15-19歲) 人口比



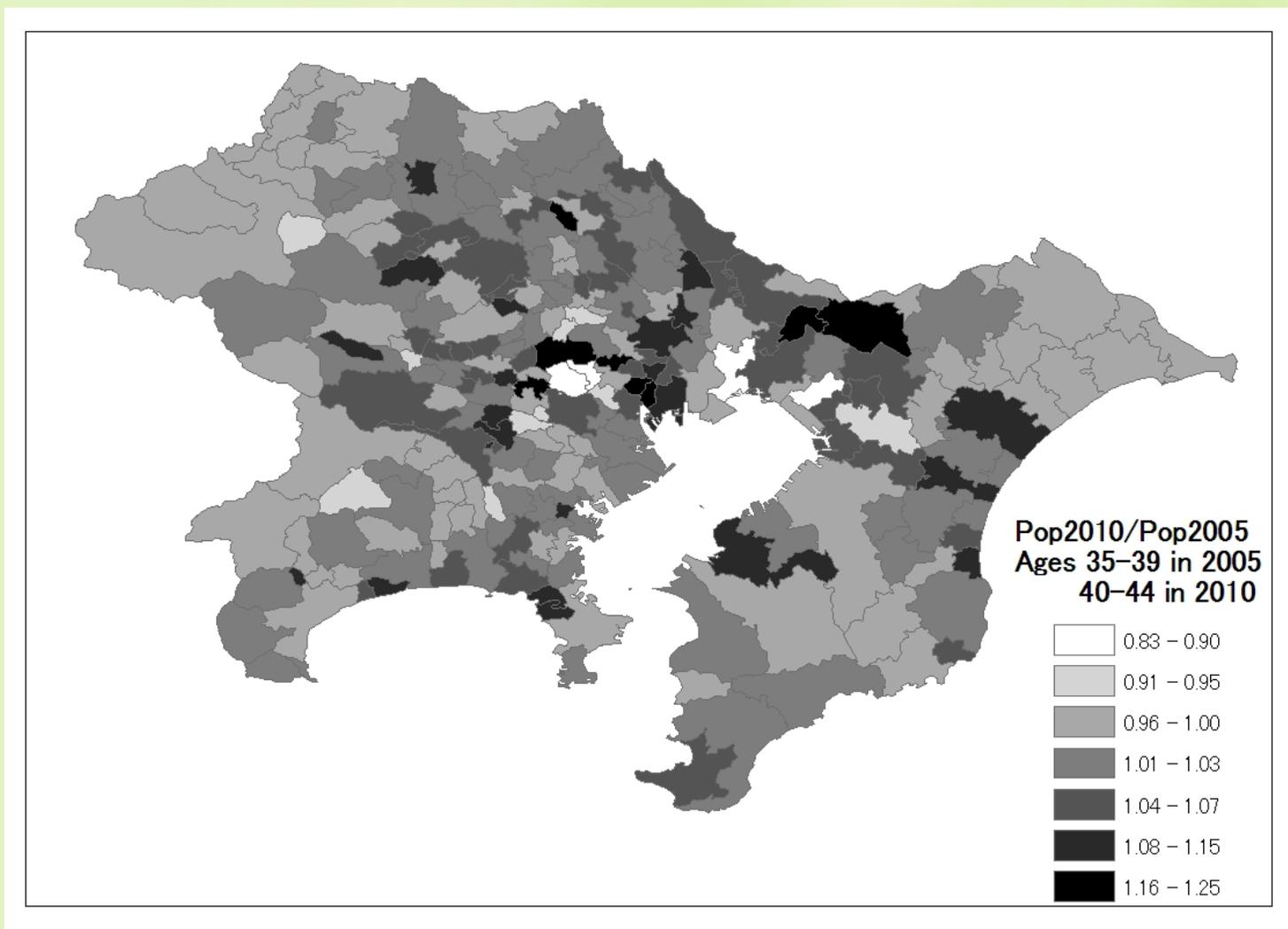
2010年(25-29歲)/2005年(20-24歲) 人口比



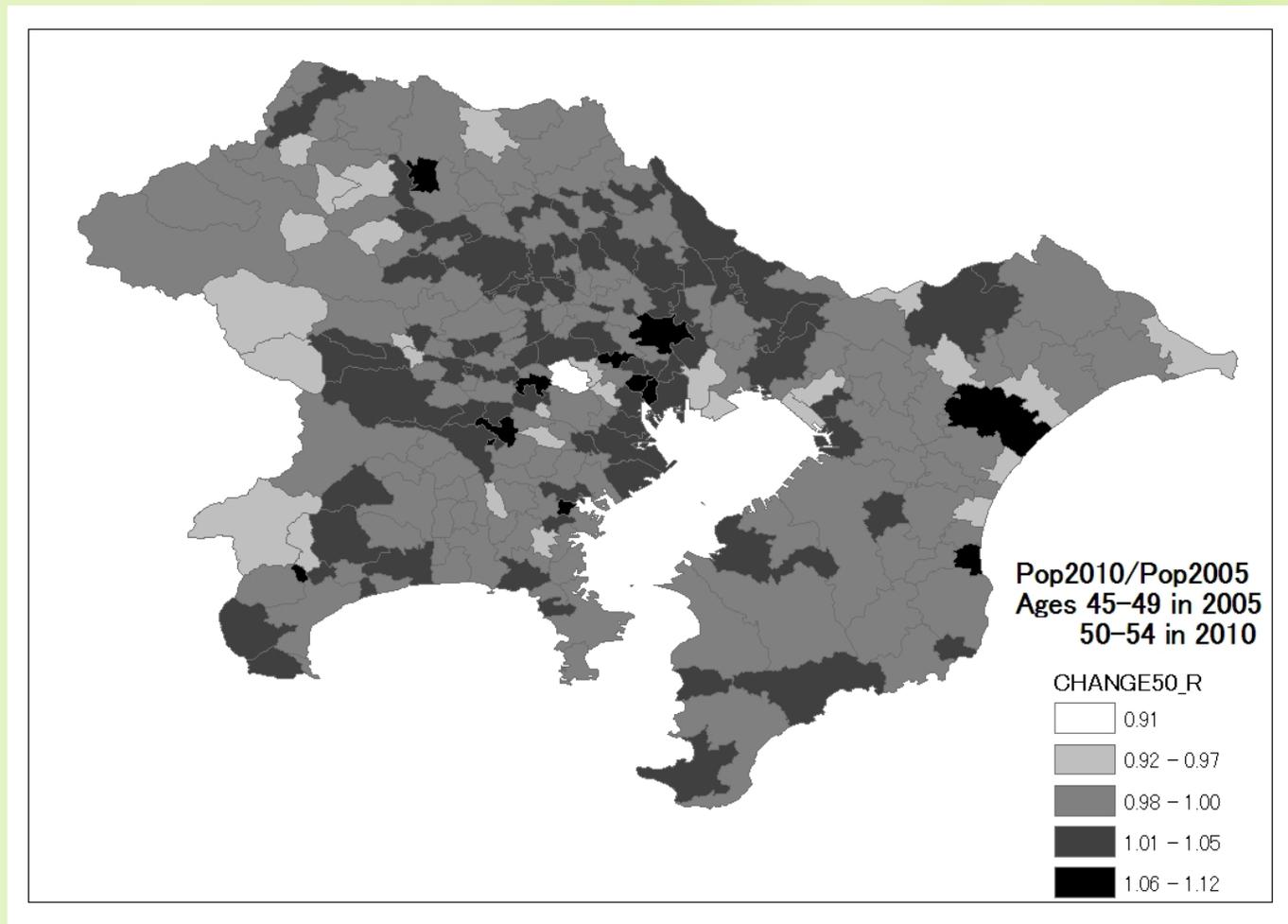
2010年(30-34歳)/2005年(25-29歳)



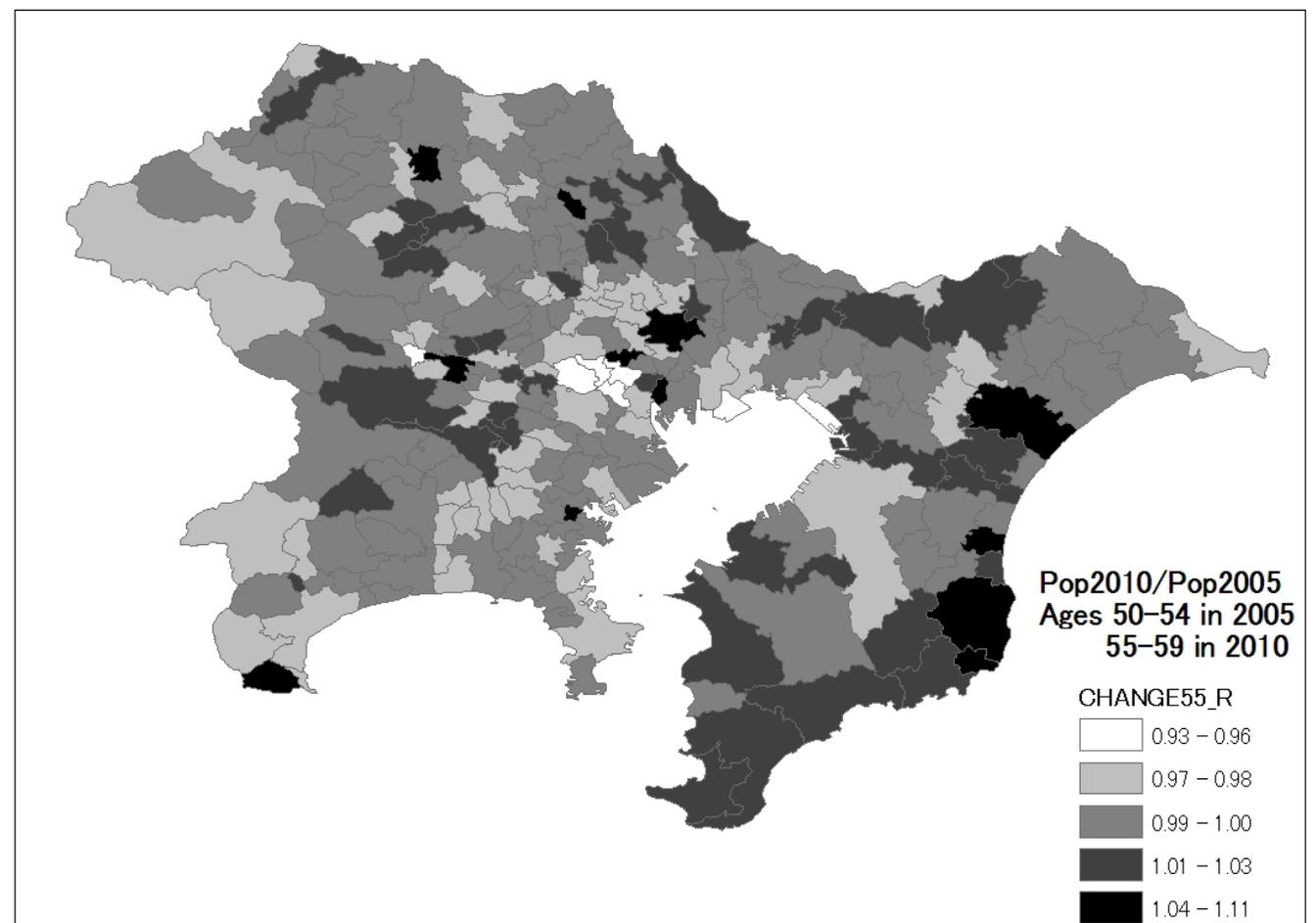
2010年(40-44歲)/2005年(35-39歲) 人口比



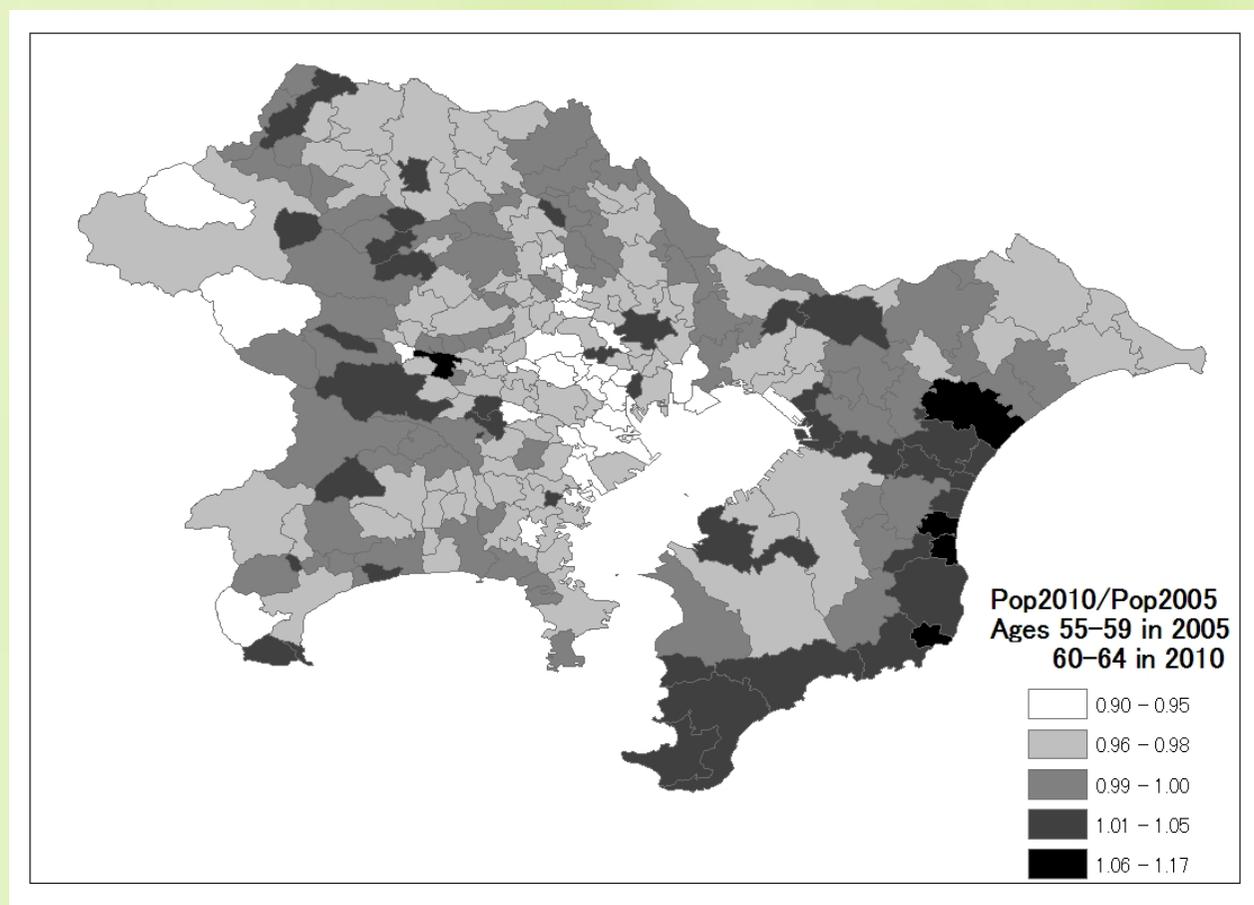
2010年(50-54歲)/2005年(45-49歲) 人口比



2010年(55-59歲)/2005年(50-54歲) 人口比

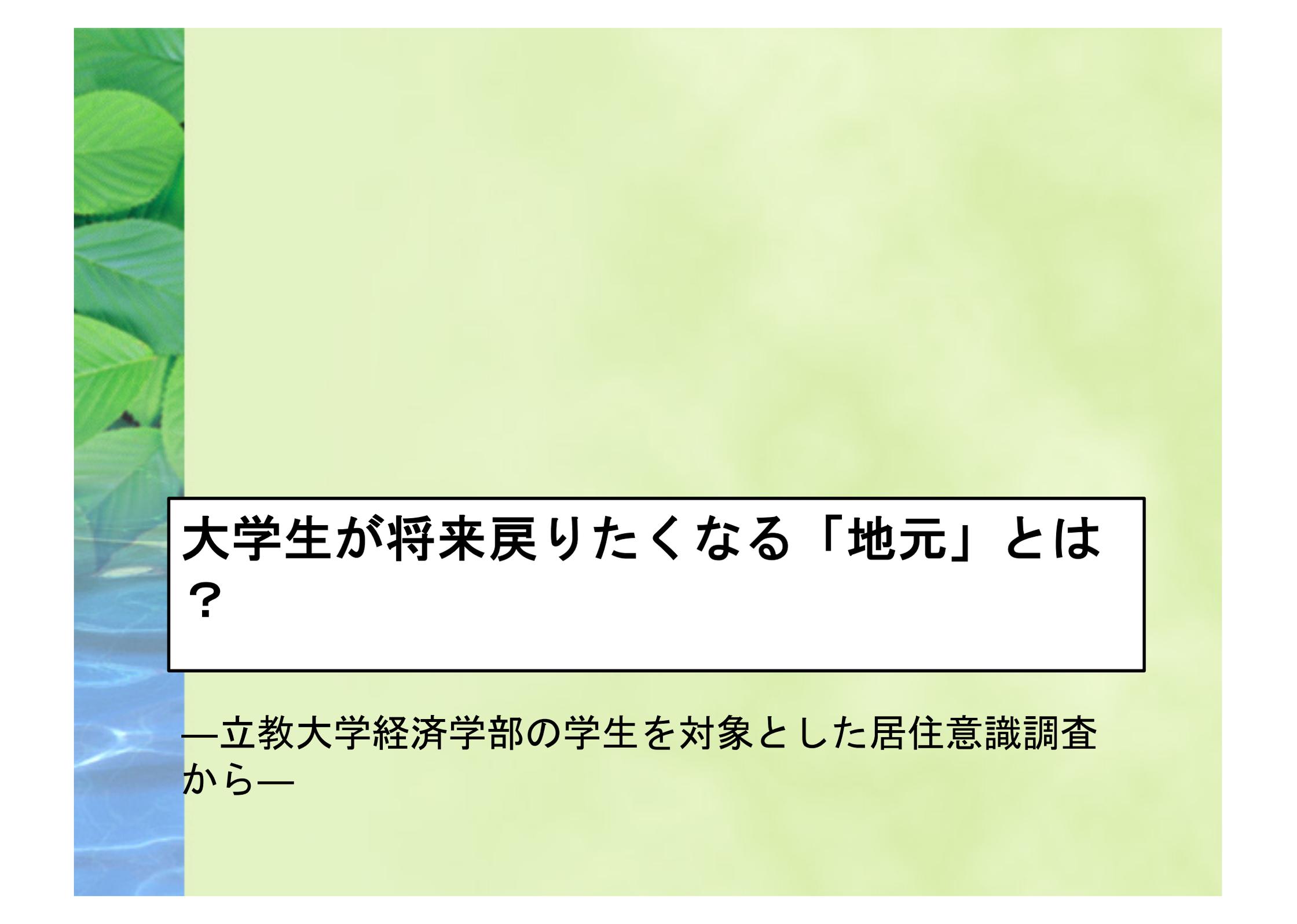


2010年(60-64歲)/2005年(55-59歲) 人口比



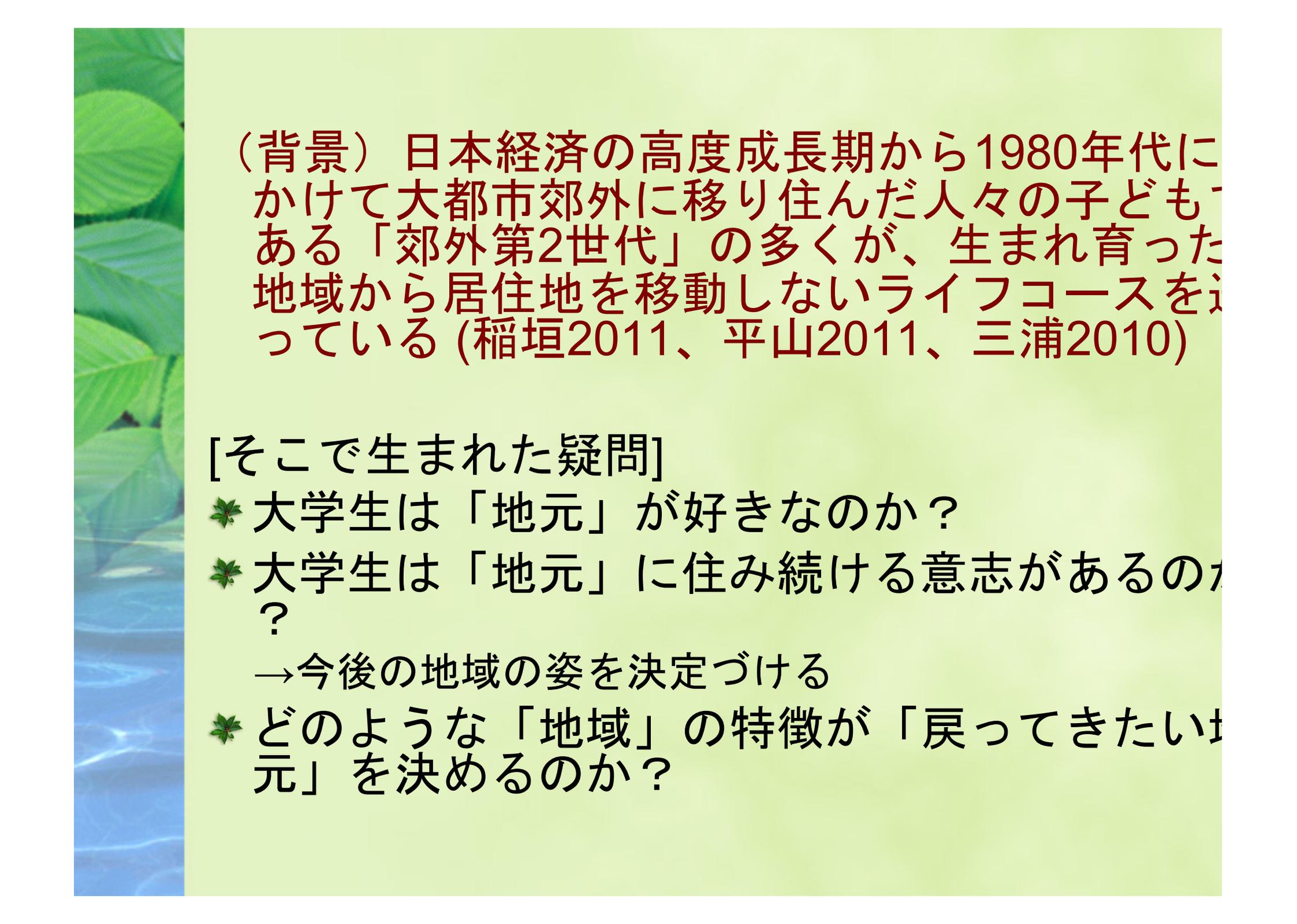
東京都市圏の人口の動向

- ✿ 20歳前後で都心近くに移動・集中（大学生、若い働き手）
- ✿ 20代後半、30代での住居移動
 - ✿ 1990年代前半までは、家族を形成するとともに郊外に移動（都心の住居費が高すぎる、過密、環境汚染）
 - ✿ 2000年頃を境に、都心や近郊に定着するように変化（地下の下落、都心・湾岸部でのマンション供給増、工場・自動車の規制による大気環境の改善）



大学生が将来戻りたくなる「地元」とは？

—立教大学経済学部の学生を対象とした居住意識調査から—



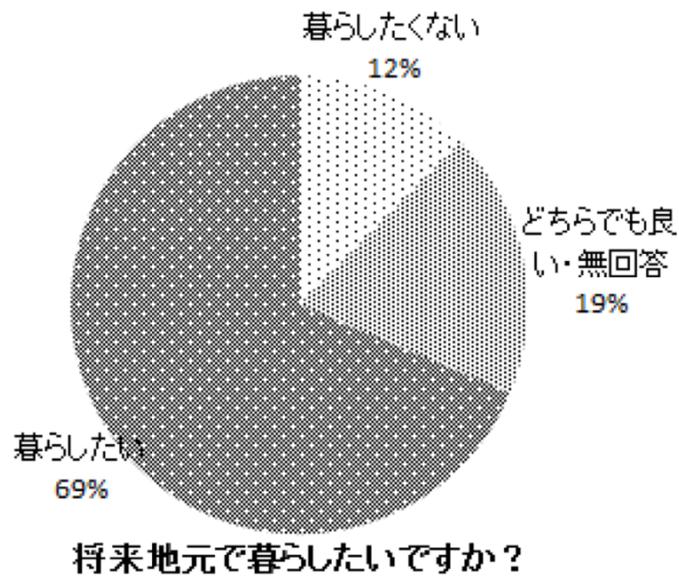
(背景) 日本経済の高度成長期から1980年代にかけて大都市郊外に移り住んだ人々の子どもである「郊外第2世代」の多くが、生まれ育った地域から居住地を移動しないライフコースを辿っている(稲垣2011、平山2011、三浦2010)

[そこで生まれた疑問]

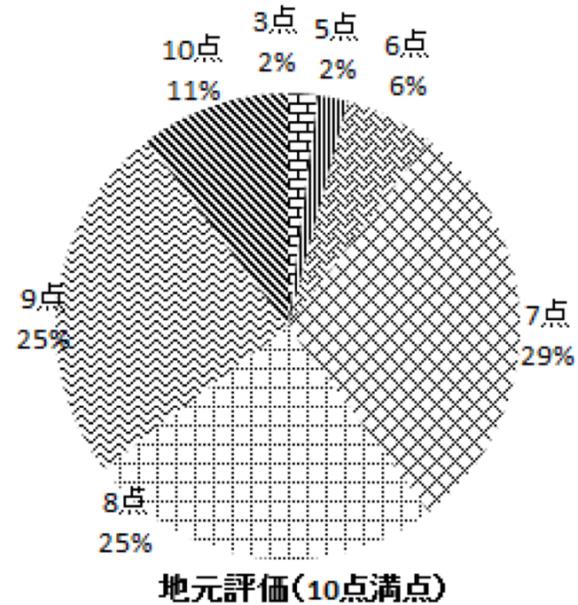
- ✿ 大学生は「地元」が好きなのか？
- ✿ 大学生は「地元」に住み続ける意志があるのか？
→今後の地域の姿を決定づける
- ✿ どのような「地域」の特徴が「戻ってきたい地元」を決めるのか？

意識調査の概要

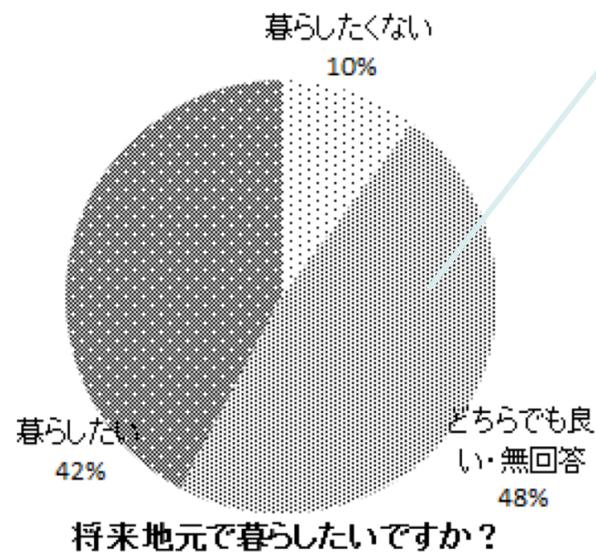
- ✿ 立教大学経済学部1年生～4年生の男女学生を対象に意識調査を行った。241人（18歳～23歳）が回答。
 - ✿ 2012年の11月下旬から12月初旬にかけて学部専門科目の教室にて配布し、その場で記入・回収。
- ✿ 出身地域を3つに区分し、東京都23区を都市部、東京都の市部（多摩部）と神奈川県・千葉県・埼玉県の3県を郊外、その他道府県を地方として扱った。
 - ✿ 都市部（東京都23区）が48名
 - ✿ 郊外（東京の多摩部と3県）が135名、
 - ✿ 地方（その他の道府県）出身者が58名。



東京都心部(23区)の回答(有効回答48名)



郊外の大学生は、地元を好きな割には「将来も住み続けたい」と思っていない！



郊外部(多摩部+3県)の回答(有効回答135名)

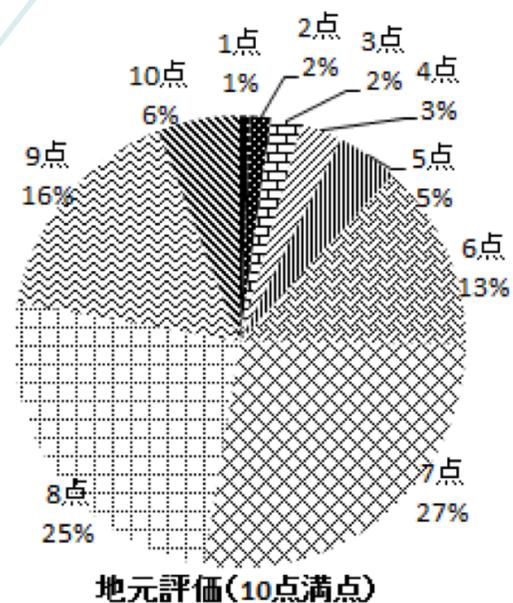


表4. 「将来地元で暮らしたい」を従属変数、出身地域の生活環境実感を説明変数とするロジスティック回帰分析の結果

	全体		都市部 東京23区)		郊外 多摩部+3県)		その他の道府県	
	係数	z値	係数	z値	係数	z値	係数	z値
病院 診療所	-0.131	-0.88	0.428	0.83	-0.473	-2.03 **	-0.029	-0.11
アクセス	0.298	2.61 **	0.352	0.55	0.457	2.64 **	0.116	0.51
街並み	0.279	2.10 **	0.354	0.77	0.435	2.24 **	0.465	1.49
地域イベント	0.143	0.93	0.546	1.10	0.134	0.62	-0.103	-0.31
ご近所づきあい	0.053	0.34	1.015	2.22 **	-0.258	-1.16	0.062	0.18
治安	-0.051	-0.38	0.025	-0.07	-0.212	-1.15	0.227	0.76
回答者が女性	0.392	1.37	0.130	0.14	0.029	0.07	2.062	2.73 **
切片	-2.040	-2.32 **	-8.161	-2.26 **	-0.553	-0.47	-2.618	-1.3
観測数 (n)		241		48		135		58
LR ch ² (7)		14.74		16.6		14.26		10.95
P > ch ²		0.039 **		0.020 **		0.047 **		0.141
Pseudo R ²		0.044		0.278		0.078		0.144
Log likelihood		-159.33		-21.51		-84.80		-32.49

**は5%水準で、*は10%水準で統計的に有意であることを示す。

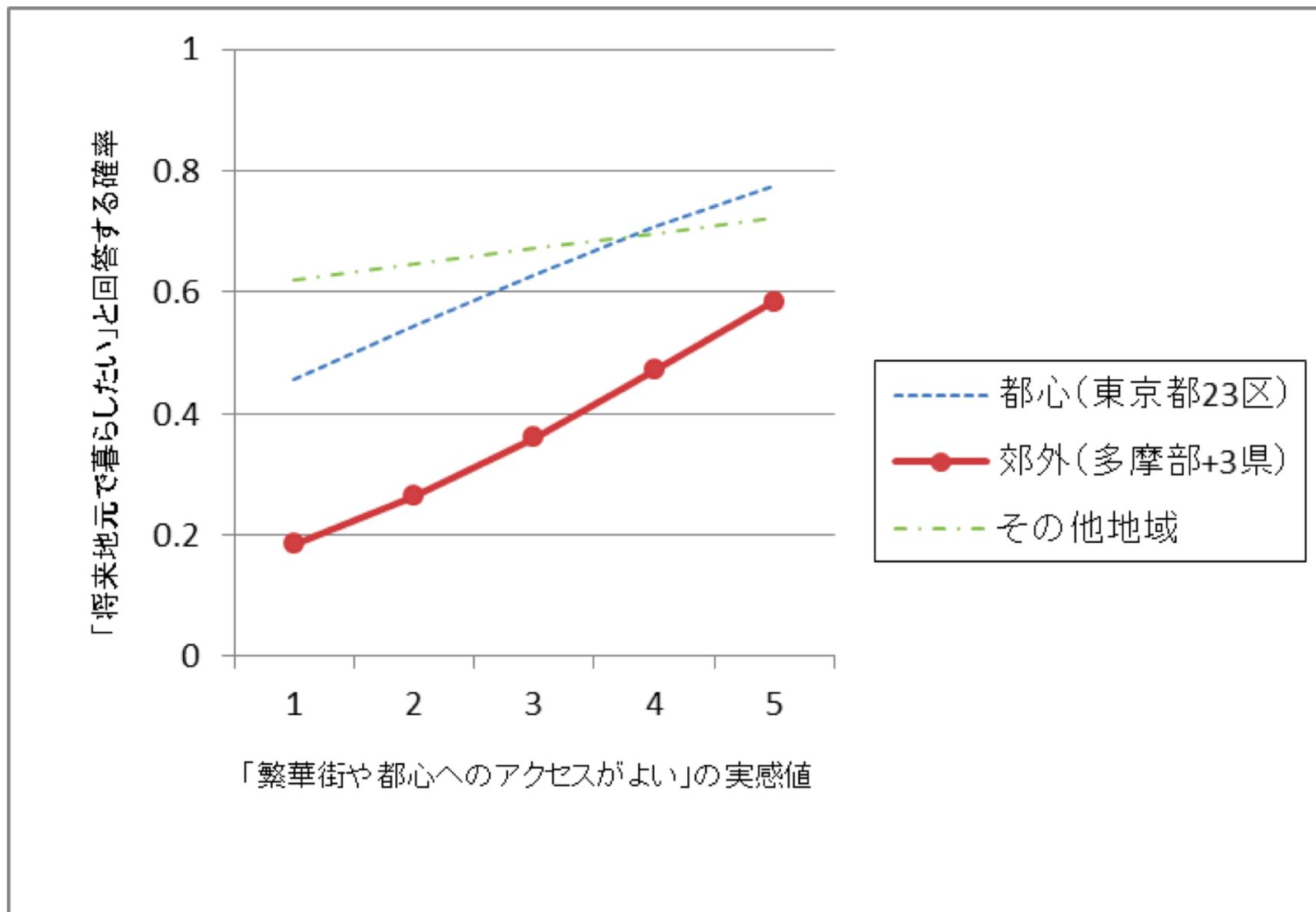


図 10. 繁華街や都心へのアクセスの生活実感値と地元回帰志向の予測値の関

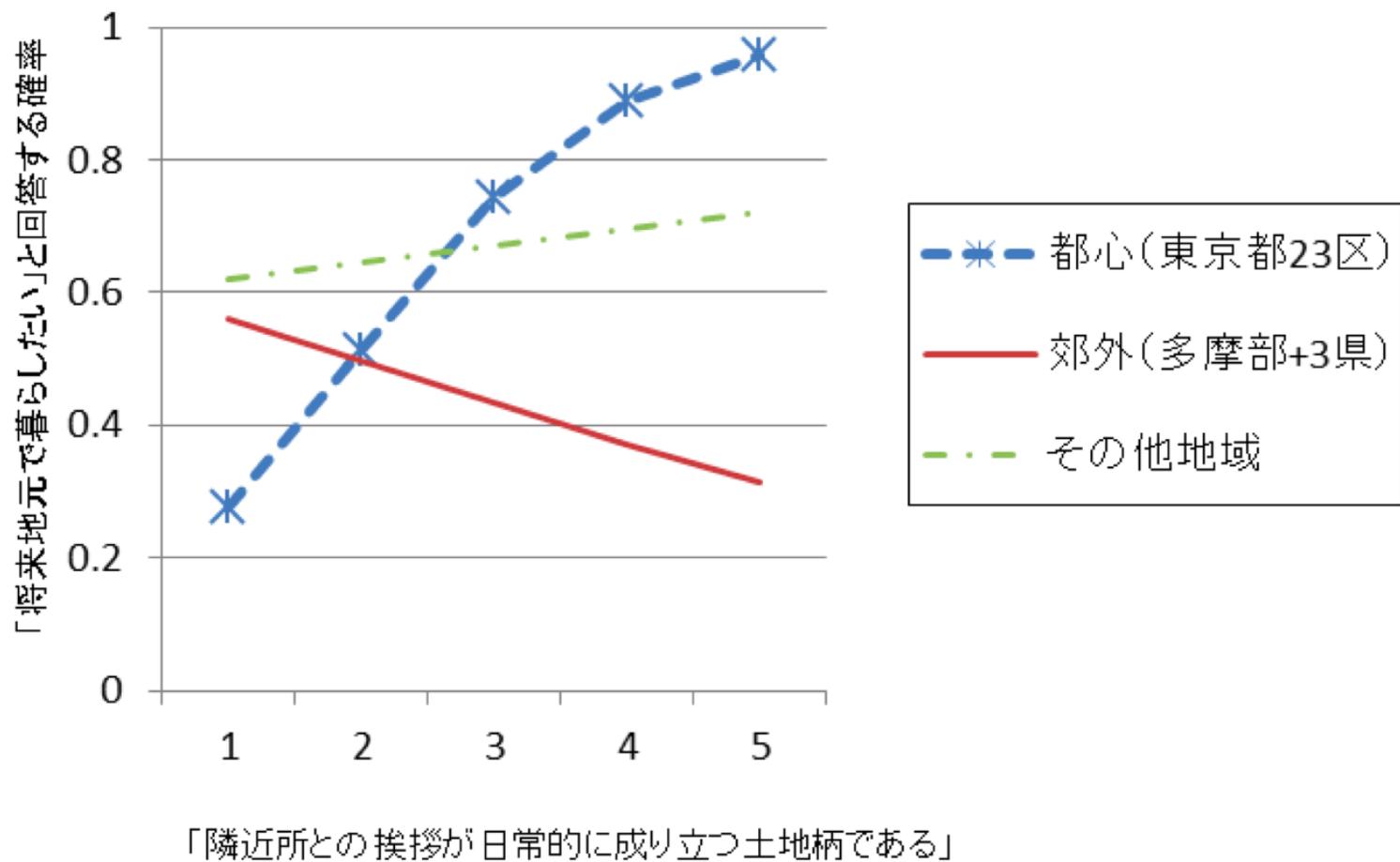


図9. ご近所づきあいの生活実感値と地元回帰志向の予測値の関係

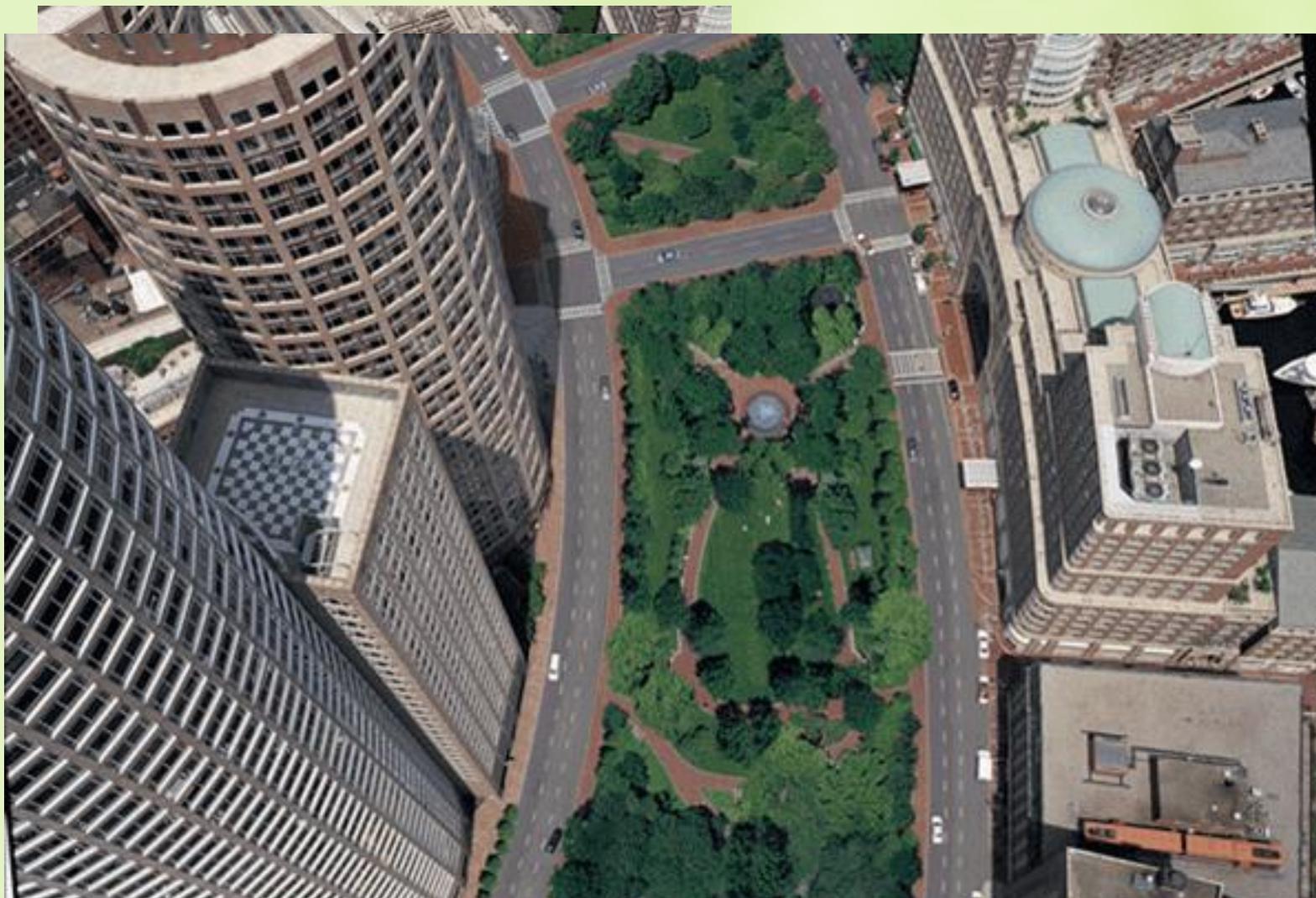
大学生にとっての 「将来も住み続けたい地元」の決め手

- ✿ やや不便（だが生活環境に恵まれた）郊外
→ 都心部にある学校や職場へのアクセスが良いこと
- ✿ 既にアクセス等に恵まれた都心部
→ 良好な近隣関係があり、安心して暮らせること

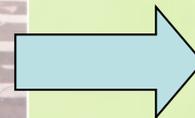


道路・交通空間とまちづくりを 一体的に行った事例

ボストンのビッグ・ディッグプロジェクトと公園・緑地



都心部に起きた変化(1)



- ✿ 高架高速道路の撤去・地下化と緑地の整備により、景観や大気汚染が改善。
- ✿ 分断されていた都市が再び結びつき、歩行者の通行が改善し、観光地へのアクセスも格段に向上。

都心部に起きた変化(2)



2000年8月



2005年5月

- ✿ 倉庫や雑居ビルとして使われていた建物が、眺望を売りにした高級マンションへとリノベーション。
(ジェントリフィケーションの誘発)



2008年9月



シカゴの鉄道跡地における ミレニアム・パークの整備



「都市空間(まち)」を誰がつくるのか

❁ 市場の失敗

- ❁ 地域公共財（消費の非排除性
・ 非競合性を有する）
←→ 私有財産（市場財）
- ❁ 外部経済の存在

❁ 公共空間の整備と管理

- ❁ どこまで「政府」「公共」が責任を持つのか？
- ❁ 受益者負担の原則は通用するのか？
そもそも便益はどのように配分されるのか？
- ❁ 財政難などの理由で政府が責任を持てなくなった時、「市民」「企業」が対応する可能性は？

公共空間
(公園、オープンスペース)

行政
(シカゴ市、ボストン市)

州政府、米国政府

参考文献

- ✿ エドワード・グレイザー著、山形浩生訳(2012)『都市は人類最高の発明である』NTT出版
- ✿ エンリコ・モレッティ著、池村千秋訳(2014)『年収は「住むところ」で決まる:雇用とイノベーションの都市経済学』プレジデント社
- ✿ 林ちなつ・田島夏与(2013)「戻りたくなる『地元』とは?—立教大学経済学部 of 学生を対象とした居住意識調査から—」『グローバル都市研究』 6号 (頁 41 ~ 61)
- ✿ 田島夏与(2012)「都心部における新たな公共空間の創出と企業の社会貢献—シカゴのミレニアムパークとボストンのローズ・ケネディ・グリーンウェイの2つの事例を通じて—」『立教経済学研究』 65巻 3号 (頁 143 ~ 161)